

委員会だより

<2月2日(日) 15名出席>

【0】補修工事準備委員会

- メンバー：(委員会)清水、花坂、甲斐、(壮年会)石井、橋、(婦人会)位田、七浦、(OB)東原
- 経緯：信徒総会にて内容を説明、承認を受けた。
- 施工は、(有)店橋工務店、見積金額は¥16,256,686(除消費税)
- 教区より借入の為資料作成、借入金額は¥1300万円
- 1/28: 横浜教区教会建設基金委員会(細井事務局長)に提出。
- 1/29: 同上会議。
- 1/30: 内示(2/3, 4に正式裁可の予定)。
- 2/9: 契約(予定)。

- 甲斐さんより：上記の為の献金は別袋とする。
- 婦人会より：献金は、小さな子供の分まで同じ口数で勘定されては大変なので、一世帯あたりの口数として欲しい旨要求が出ている。

【1】財務報告：97年1月度決算報告(甲斐さん)を委員会了承。

【2】お知らせコーナー：

- 補修工事：上記の様に、近日中に補修工事を着工
- 四旬節の「赦しの秘蹟」：3月16日に鶴飼神父様のご指導により行われる。
- 2月1日に上大岡カトリックセンターで宗教法人法改定の説明会あり。資産台帳等、準備必要。
- 同じく2月1日上大岡カトリックセンターで中和田教会の96年度決算書を提出、審査を受けた。

【3】お話し合いコーナー：

- バザーについて：
 - 補修工事借入金の返済の課題があり、目標(ノルマ)を35万円に設定して進めたい。
 - 早めにバザー委員会を結成し、バザー券、PR等の準備、推進する。
 - 他の教会の事例等も、資料入手して参考にしたい。(税法に留意)
- 山崎神父様蔵書の整理：壮年会が協力して進める。
- 3/30のご復活お祝パーティー：持寄り形式で行う。委員会が6万円の予算あり。
- 中和田教会 自衛消防隊メンバーを一部改正(揭示済)
- 要理学校の卒業式が行われるが、対象者は1名。
- 信徒総会にて、お聖堂の椅子の配置間隔が狭いの

で掃除がやりづらく、改善して欲しい旨要望あり
 (7)「広報なかわだ」の随筆コーナーの執筆は壮年会が担当しているが、今後、壮年会、婦人会隔月で担当することとしたい。本件は婦人会に提案する。

壮年会だより

<2月16日(日)>

- > 委員会報告
- > サロンに壮年会よりお茶菓子代を補助(1000円/週程度)
- > サロン担当を下記の方々をお願いする。(敬称略)
第二週：鈴木、石井(三)
第四週：橋、七浦

婦人会だより

<2月16日(日) 36名出席>

- > 委員会報告
 - > 月報。婦人会でも壮年会と一ヶ月交代で寄稿することに決定。自由課題です。皆様の楽しい話題をお寄せ下さい。
 - > 掃除。第二、第四のミサ後、全員で聖堂の掃除をすることを婦人会として決定。
 - > 遠足。相鉄観光バスで立場より「浅草、仲見世、隅田川下りと浜離宮」と内定。日には5/14(水)。費用は7000円位。多数のご参加をお待ちしています。
 - > バザー。バザー委員は会長、副会長、会計(特別)の三名に決定。今年は奉仕日を持たないことになりました。自主作品の手芸品をお一人二点以上。買ってきたものでも結構です。その他新品不用品も集めますので、お早めに宜しく御願致します。
 - > 「手芸同好会」として、バザーの製品を作り始めていますので(毎週木曜日午後1時より)、お手持ちの材料がありましたら御寄付下さい。
 - > 例会と掃除の時のお菓子を節約のため出さないことになりました。特別会計の純益の一部を建設資金に使うことになりました。
 - > 大掃除と卵ゆで。3月29日(土)午前10時から
 - > 復活祭 3月30日(日) 持寄りパーティーです。
 - > 下山千代子様 お見舞い。順調に回復されているご様子です。
- 次回例会 3月9日(日) 次回当番はA地区です。



お知らせ

村瀬 祐子 プレジオMC203 (0423)90-7298

- > 屋根の修理 2月24日(月)から開始されます。
- > 赦しの秘蹟 3月16日(日) 鶴飼神父様
- > 聖木曜日～聖土曜日(3月27～29日) 御ミサは夜8時からです。
- > 御復活の主日 3月30日(日) 御ミサは午前9時から。この後パーティーが持寄り形式で行われます。



第223回

カトリック中和田教会
 広報委員会発行
 泉区中田北1丁目9-1
 Tel. (045) 803-6141
 1997年3月9日

今月の予定	
委員会	3月2日
赦しの秘蹟	3月16日
復活の主日	3月30日
サロン	3月9, 23日
レジオ	3月14, 21, 28日



汗牛充棟の序

山崎 正俊

◎ ものわりのにぶさ。何歩かの遅れ。いつでも、仲間の後ろについてゆくことになる。それが競い合うことからはずれさせ、人生の節目に立っても、自己主張などする気がないので、のんびりしたままで、いつしか、間に合わなくさせている。それでも、待っていただけたり、手を引いてくださる友人があつたりして、追いつけることになる。多くの人には、そろって、わき道におまわりになることがあるので、私などでも本筋をはずれるうえに、自分好みのものに気をとられ、そのつまかさねが、「真理とは、そのあたりで同感されるものの集合」というようなものにすぎないのではないかなどと、自分なりに独断と偏見に近い観念に固執することに傾く。

◎ 例によって、こんども、ちょっとまごつかされた。これは仕方のないこと。いくつになっても、たいした進歩の印もないものだなあと、あわてたような振りをしながら、すべてなりゆきまかせ。

◎ 「あの部屋で、ほこりまみれになっている書物を、この十三年のあいだに、すこしはお手になさったことでもおありでしたか。それなら、捨てるなり、分けるなりなさったならどうですか」「みかん箱にあれほど、毎年のように買い込んでおられるのですか(事情はどうであれ、おおせのとおりです)。

カトリックのものがいくらかあるのは当然ですが、キリスト教各派のもの、日本に生み育てられた者らしく、神道、佛教、儒教、道教、それから歴史書。アイヌ、沖縄や、いろいろの差別の問題。文学作品、特にトルストイなど、以前からの情性、新たに目に飛び込

んで来たもの。それはどうでも、いまは読めそうもないもの、いつかは読むかもしれない(誰かの役に立つ)ものなど、余分な収入があるたびに、それをはたく。前任地から移るに当たって、そのまま残したのが行方不明になっているのに、教会の屋根の張り替えのとぼちりりで、手許にあるものの移動を本気で引き受けてくださった方々の御苦勞が、「この本は、どうにかならんか」

◎ いくら集めてみても、百年もしないうちに、その大部分は読むに耐えないほどのものと見られ、傷みのあまりに、ゴミになっているだろうことを承知で、そうなるまえに私がしているように、読みちらしていただくと有り難いという願いが叶うなら良いが、読書習慣を失ったおかたたちの間に、雲散霧消するに違いないなどと、確信しなければならぬとは、淋しいことの限り。

しかも、その間の思いを、誤字、脱字、迷文だらけの数冊目の小冊子に、まとめて置こうなどと、思い込んでおるとは。……

◎ 私のけちな一生(そんなことは思ってもいません)が、日が過ぎたというだけではなく、後の人たちのために役立っても無駄になどならないとして、予定していた四十年の残りの、(ここ数年のものをまとめ、ずうずうしくも、うぬぼれではなく)三年ほどを記録に残そうとしている。数百年も前の新知識が数百年後の現代、この私にとってさえ、初歩的な常識にすぎなくても、そのうちのいくつかが、得難い宝の基(モトイ)ともなっているの喜び、その宝を後に伝えるきっかけにでも(なるかどうかは知らぬ)。

(1997. 2. 22)



愛しの爺ちゃん婆ちゃん銘々伝

竹内 廣治



M氏 —— 七十五才

老人会の中でも行動派と知られ、その気概や壮者を凌ぐ万年青年、歌が大好き人間の代表。お年にも関わらず中々の美声で、老人会の永遠のテナーともてはやされている。明治から大正、昭和にかけてのレパトリーの広いこと。加えてその歌の歌詞の殆どを暗記している素晴らしい記憶力。M氏曰く「俺は歌が上手かったおかげで、軍隊へ行っても重宝され、部隊長付の当番兵にも抜擢されて厳しい軍隊生活の中随分楽をさせて貰った。芸は身を助けるとはこのことだ」と。いやあ流石だね。

T氏 —— 七十四才

右膝疾患のため歩行にやや御不自由な点を除けば、実に堂々たる体躯の持ち主で、お洋服の着こなしなどを拝見すると、お若い頃はさぞやと思わせる程の小粋なコーディネイトで固め、一分の隙もない。憎らしい程のお洒落爺さん。けれどお話をするとその立派な容姿に似合わずとてもナイーブな人柄で、御趣味はと問えば小さな声で「宝塚歌劇」と答えられる。何かの集まりでお酒が程良く廻り始め、歌を是非是非と迫られると、マイクを大事そうに握りしめ、ゼスチャーたっぷり「スマレの花の咲く頃」とか「モンパリ」とかで場内拍手喝采の渦となる。その意外性が大受け大受け。

そのT氏の最愛の婦人が昨年亡くなられた。大分力を落とされた様子だったが、ある日私にそっと曰く「家内が亡くなってみると淋しいことは想像し覚悟はしていたが、こんなに淋しいとは思わなかった。だから竹内さん時々遊びに来てね。一緒にレビューのビデオを観ましょうね」Kさん元気出してね。

S氏 —— 八十四才(光頭第三位)

老人会二代目会長を務められた御長老。何流かは知らぬが日舞を御趣味とされている。町内盆踊りに欠かせない人物で、いつも和服でシャナリシャナリと御出座。何かの集まりには依頼の有無に関わらず、必ず一曲舞踏を御披露頂けます。

但しS家元もお弟子さんも御老体なものですから、踊りの最中気のせい「ギシギシ」と油を差したくなるような音を感じることもあります。これもご愛敬ということですか。「ヨオ大統領」とか「町内国宝」とか大向こうから野次が飛んで賑やかなことです。嬉しそうにしている出演者に心から拍手を送りましょう。この方戦時中は、泣く子も黙る陸軍の鬼軍曹殿であられました。S氏曰く「人間色っぽく生きるよと長生きするのよ」と。参った参った。

会社を定年退職し、年金暮らしを始めてから一年と数ヶ月を過ごしました。退職した当座、これからの第二の人生をどう生きるべきか?などと気張ってはいたものの、生まれつき怠惰症候群気味なものですから、いつの間にか気の抜けたビールに如くショボンとなってしまいお恥ずかしい次第です。そんな訳ですから充分反省し、サア頑張りましょうと気合を入れた折りも折り、私のリタイアを伝え聞いた昔馴染みのご老人から、老人会入会の勧誘がありました。考えれば私も真もなく六十七才、未だ未だ若いと思っはいても世間から見れば老人の部類に入ります。仕方がないと思ひ乍ら大分昔にかの老人と交わしたある約束を思い出しました。

以前暮らしていた町内で、私がやむを得ない理由で町内会の役員を何期か務めたことがありました。丁度老人会設立の機運が漸く高まりつつある頃で、圧倒的なシルバーパワーに押されて老人会発足について何らかの関与を致しました。今後も老人会の御世話を願いたいとの懇請があったのですが、私も若かったし又、務めもあるということで断り続けた経緯があります。それでも懇請攻勢が続いたものですから、根負けしてしまい、ともかく定年退職した暁には考えましようということで納得して頂きました。遂にその約束の時が来た訳ですが、引越をして住居も遠くなったこともあり、充分な会員の務めも満足に出来ないことを条件に、入会を決めた次第です。かの老人には色々注文をつけたけれど、遠くになっても思い出して下さる御親切には感謝しなくてはならないし、心の中には手塩にかけた老人会を尚一層盛り立ててみたい気持が、おのずと湧いて来て、僅か乍ら気が漲る心持ちです。前に何かの記念の集まりに招かれて皆さんと楽しく語らう中で、とりわけ、老人とはとても思えない強烈な個性とパワーを見せられてびっくりすることがありました。ここに代表的な元気印の何人かを皆さんに御紹介致します。

題して「愛しの爺ちゃん婆ちゃん銘々伝」

K嬢 —— 七十八才

亡くなられた御夫君が商社マンで海外駐在が長かった故か、国際的な感覚をお持ちのマダムでパーティーの花形だったのでしょうか。社交ダンスがお得意です。内助の功と申すべきでしょう。老人会ですから「奥様お手をどうぞ」という殿方も少なく、それがいささか御不満の御様子でしたが、最近ではカラオケ道場に日参とか。K嬢曰く「ダンスには音感が一番大切なよ」と。いやお若いお若い。

青少年コーナー



よい人生
小林 敬三



その1.「君は君自身でいたまえ」

甲子園に、今年もまた球児たちの暑い夏がやってきた。わたしは、今年の甲子園には特に心を躍らせている。というのは、かつてわたしが洗礼を受けたとき赤ちゃんだった子が高校生になり、今年晴れて甲子園に出場することになったからである。

五人兄弟の末っ子、野球が好きで、どうしても野球をしたという彼を、仙台へ単身赴任していた父親がそれならと呼び寄せて、仙台育英高校へ入学させたのだった。野球部に入った彼はレギュラーになり、予選を勝ち進み、優勝して県代表となり、甲子園に出場することになったのである。

仙台にお祝いの電話をすると、本人が出て、「ほんとうにうれしいです」と弾んだ声で答えた。続いて父親が出、興奮した口調でいろいろと話を開かせてくれた。

県代表に決まったとき、新聞やテレビが次々とインタビューに訪れた由。特に、「君のいちばん好きな言葉は?」ときかれて、皆それぞれ野球少年らしく「一球入魂」「闘志」「なせばなる」などと答えていた由。

「ところが、うちの子は違うんですよ。神父様、喜んでください。神父様がかって日曜日のミサのとき、お説教でいわれた言葉がよほど気に入ったようで、自分の机に小刀で刻みつけていたくらいですから。インタビューでも、差し出される色紙にも、その言葉で答えているんですよ。」

「それは、なんという言葉ですか。」

「『君は君自身でいたまえ』です。」

確かに何年もまえ、ミサの説教に使った言葉である。当時まだ小学生だった彼は、感銘を受けて覚えていたのだ。「君は君自身でいたまえ。」しかし、この言葉はわたし自身の言葉ではなく、文芸評論家、故小林秀雄氏のものである。

その説教は、およそ次のような内容であった。
「人間は、神様からそれぞれ違う才能を与えられている。数学は得意だが運動はまったくだめだとか、またその逆の場合もある。わたし自身も、神様から与えられなかったと思うことが多々あるが、そのひとつに、歌詞がまったく覚えられないということがある。全部そらんじているのは『君が代』くらいで、あとはどれも一番の一行目どまりである。いくら努力してもだめなものは、だめである。かつて、ある有名なバレーボールの監督が、『なせばなる』と盛んにいわれたが、むしろ、なしてならぬのが人生の真実ではないか。その真実を素直に受け入れよう。貧しい自分を喜んで認めよう。結局、わたしはわたし自身でしかあり得ないのだから、それでよいではないか。『君は君自身でいたまえ。』」

すみれは、ばらではない。すみれは、すみれらしく咲くとき、もっとも美しい。『君は君自身でいたまえ。』

この心のゆとりは、福音的である。信仰とは己の貧しさを受け入れる心をもちつづけること、神の力に頼って自分の力に頼らないことだからである。

マルコ福音書には、『信じる者は、わたしの名によって悪霊を追い出し、蛇もつかめる』(マルコ16.17,18参照)とある。キリストを信じる者は、恵みによって人生の問題をうまく処理できる力をもてる、という意味であろう。

むずかしい人生の問題を処理できるための心構えは、物事にとらわれぬことである。キリスト者は、キリスト以外の何物にもとらわれない。他人の目にもとらわれない。自分自身の弱さや貧しさにもとらわれない。他人の持ち物と自分のそれとを比較して悩むこともない。結局、わたしは、わたし自身でしかありえない。だから、『君は君自身でいたまえ。』

まだ小学生だった彼が、この言葉を覚えてくれたことはとてもうれしい。甲子園ではどうか、君らしくがんばってほしい。そして、これからの人生においても、いつまでも「君は君自身でいたまえ。」

(「セーヌ川のだるま船」より転載させて頂きました。)

ミサ 当番表 (97年3月、4月)

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン	月/日	主日	朗読、奉納	オルガン
3/2	四旬節第三主日	山田	森田	4/6	復活節第二主日	小谷	大宮
3/9	四旬節第四主日	青年会	大宮	4/13	復活節第三主日	青年会	岩淵
3/16	四旬節第五主日	婦人会A地区	岩淵	4/20	復活節第四主日	婦人会B地区	石川
3/23	受難の主日	清水	石川	4/27	復活節第五主日	七浦	森田
3/30	復活の主日	婦人会A地区	森田				

※当番の方は10分前には集合して下さい。

※ご都合の悪い方は典礼委員までお申し出下さい。(萩原: TEL 802-6258)